

令和8年度

阿南第二中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①UDやICTを取り入れた「わかる授業」の実践
- ②言語活動の充実を図り、表現力を育成する授業の実践

校長

加賀谷 登

学力向上推進員

【校長】加賀谷 登 【教頭】佐坂 大介
 【教務】片山 徹
 【学年代表】平間 友介 谷中 英昭 和泉 淳子

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員同士による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○どの教科も授業に真剣に取り組んでいる。上位層・中間層の生徒は基礎的・基本的な知識技能が身につけている。</p> <p>●基礎学力定着のための家庭学習時間が不足している生徒が多く、知識・技能の定着に個人差が見られる。</p>	<p>・セミナーや自主学習ノートを毎日提出することができ、基礎的・基本的な知識を確実に身につけることができる。</p> <p>・小テスト、単元末テストで正答率が70%以上。</p>	<p>・UDを取り入れたわかりやすい授業展開で、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・各生徒の学習状況を把握し、生徒の実態や個に応じた指導を行う。</p> <p>・模範となる内容のノートを掲示する等、生徒の意識を高める工夫をする。</p> <p>・教員が相互に授業参観を行う、また年3回の研究授業及び授業研究会を行う。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自分の意見や思いを表現することができる。</p> <p>●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。</p>	<p>・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。</p> <p>・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。</p>	<p>・「阿波っ子タイムズ」から記事を選び、視写、感想を書く活動を週1回行う。</p> <p>・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。</p> <p>・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自主勉強ノートを毎日計画を立てて仕上げ、提出できている。</p> <p>●家庭学習の時間が少なく、疑問に思ったことを自ら追求しようとする姿勢に乏しい。</p>	<p>・学ぶことに興味や関心を持ち、どの教科にも積極的に取り組むことができる。</p> <p>・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。</p>	<p>・「課題ボード」を有効に活用する。</p> <p>・何を・なぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業の目標や活動の流れを提示し、本時の振り返りをさせる。</p> <p>・テストに向けて、目標設定や計画表作成をさせ、テスト後に振り返りをさせる。</p>			